

富山県若年性認知症 相談・支援センター

令和8年7月発行

10周年記念誌

第9号

活動だより

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

富山県若年性認知症相談・支援センター

〒930-0094 富山市安住町5-21サンシップとやま5階

富山県難病相談・支援センター内

TEL 076-432-7501 FAX 076-432-6578

富山県若年性認知症相談・支援センターは、本年7月15日に開設10周年を迎えました。これまで、当センターの事業等にご協力ご支援いただいた当事者の方とご家族、支援関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

当センターは、平成28年に県が富山県社会福祉協議会に委託し開設しました。若年性認知症支援コーディネーターを配置し、若年性認知症の人やその家族及び関係機関からの相談に応じ、仕事・生活・経済的なことについて総合的に支援を行ってきました。

また、この10年間で、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の施行や新たな治療薬の保険適用など、制度や治療等が大きく前進してきました。一方で、当事者やご家族が抱える不安や悩みは依然として大きいのが現状です。これからも一人一人の思いに寄り添いながら、安心して暮らし続けられるよう支援を続けていきたいと思います。今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

10年間のあゆみ

- H28** ・ サンシップとやま5階に開設し、若年性認知症支援コーディネーターを配置
- ・ センターリーフレット、ポスター及びホームページを作成
- ・ 「支援者のための研修会」「ネットワーク会議」を開催(毎年1回)
- H29** ・ 「本人・家族のための交流会」を開催(2回)
- ・ 「若年性認知症ハンドブック」作成
- H30** ・ 「本人・家族のための交流会」を開催(3回)
- ・ 「活動だより」創刊号発行(年1回)
- R元** ・ 「本人・家族のための交流会」を開催(3回)
- R2** ・ 企業等・職場向けパンフレット作成
- ・ 「本人・家族のための交流会」に、作業療法士に作品作り指導、認知症看護認定看護師に本人支援と家族への助言を行うパートナーとして協力を依頼(4回)
- R3** ・ 「本人・家族のための交流会」の名称を家族の提案で「土曜サロン」と命名し定例開催(隔月年6回)
- ・ 富山県包括協定企業へパンフレット等を配布開始(毎年2か所の企業)
- ・ センターリーフレットをリニューアル

- R4** ・ 新たに「家族だけの交流会『おしゃべりカフェ』」を開催(5回)
- ・ 啓発用ポスターを作成、医療機関に配布
- ・ 「認知症にやさしい地域づくり推進キャンペーン(富山県主催)」にて相談会を開催、センターリーフレット等配布(2会場)
- R5** ・ 交流会の名称を「本人・家族の交流会『なないろカフェ』」、「家族の交流会『おしゃべりサロン』」と変更し再スタート。現在も継続中(各隔月年6回)
- ・ 「認知症にやさしい地域づくり推進キャンペーン(富山県主催)」にて相談会を開催、センターリーフレット等の配布、若年性認知症と当センターの紹介パネルを展示
- ・ 能登半島地震の影響で事務所を2階へ仮移転
- R6** ・ 「認知症にやさしい地域づくり推進キャンペーン(富山県主催)」にて相談会、パネル展示、センターリーフレット等の配布
- R7** ・ 啓発用ポスターを2種類(医療機関向け、一般向け)作成、それぞれの関係機関に配布
- ・ 「認知症にやさしい地域づくり推進キャンペーン(富山県主催)」にて相談会、パネル展示、センターリーフレット等の配布
- ・ 事務所を元の場所(5階)へ移転
- R8** ・ センターリーフレットをリニューアル

活動実績 平成28年7月～令和7年度

相談・支援

若年性認知症のご本人やそのご家族、医療・福祉関係機関、地域包括支援センター、行政及び勤務先等からの相談・支援を行っています。

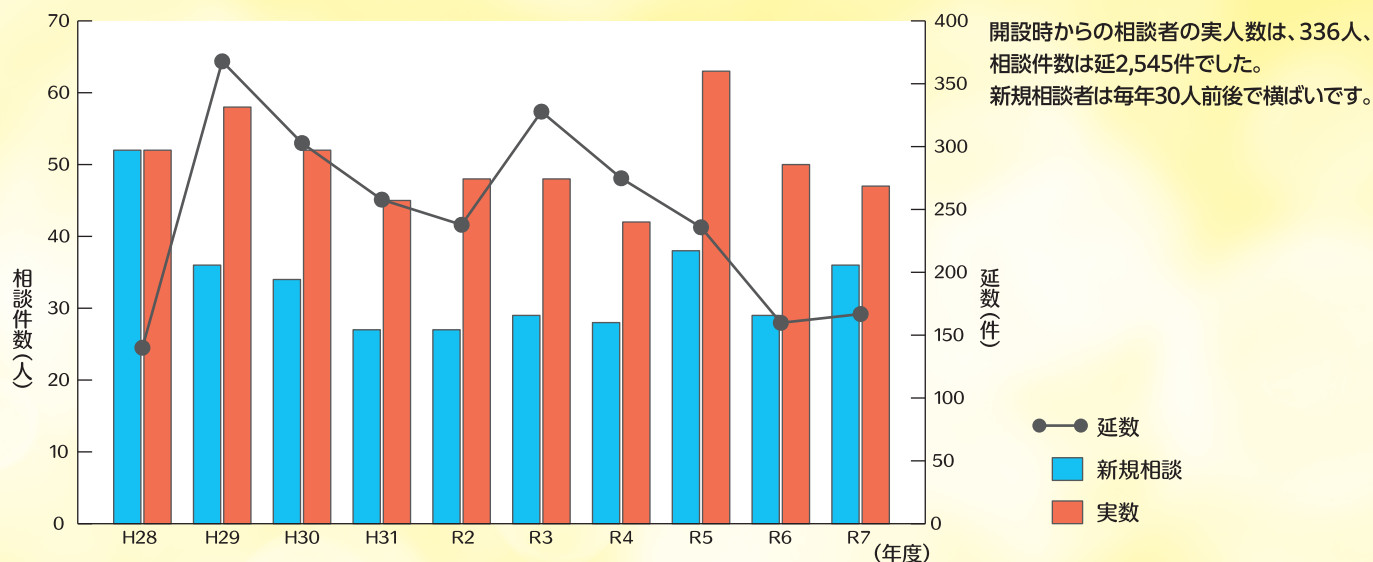
受付日時：月～金曜日 9:00～16:30

(祝日・年末年始を除く)

※面談の場合はご予約ください

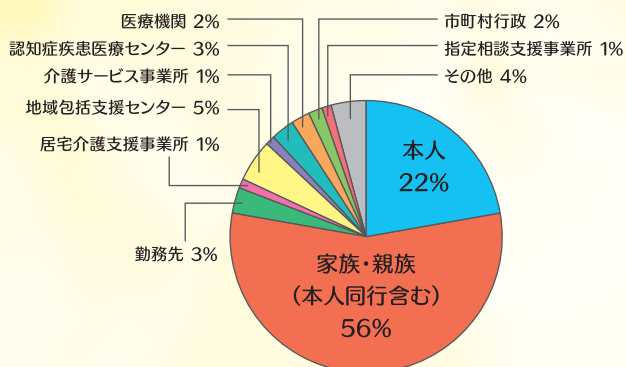
TEL 076-432-7501

①年度別相談件数



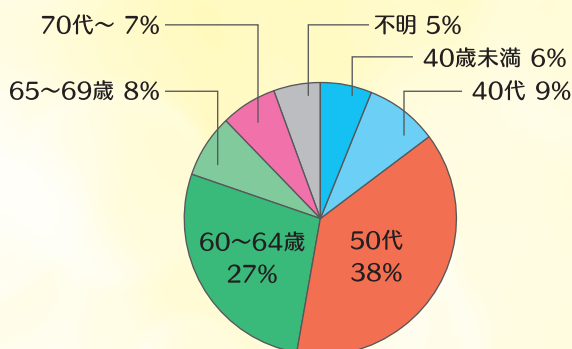
②初回相談者別内訳 (実数336人)

初回相談時の相談者は、家族・親族が最も多く、次いで本人となっています。



③被相談対象者の年代別内訳 (実数336人)

年代別では、50代が最も多く、次いで60～64歳でした。



相談例

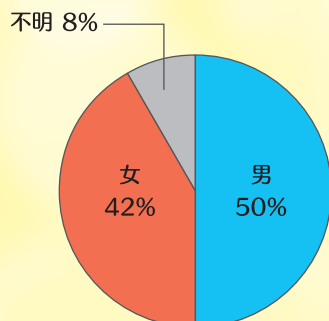
会社からの相談で就労継続につながったA子さん (50代後半、女性、事務職／一人暮らし)

A子さんは、長年担当している経理の仕事にミスが目立ちはじめる。上司が産業医へ相談したところ認知症専門医の受診を勧められる。A子さんは自覚がないため、産業医から説明してもらい、専門医を受診。アルツハイマー型認知症と診断された。診断後は簡易な作業に配置転換となり、上司は服薬開始により良くなったと感じていたが、数か月後、再び仕事のミスやうまく駐車できない等の問題が出たため、上司が当センターへ来所し相談。長年働いた社員に定年まで働いてもらいたいと話され、不安なく作業ができるよう環境の見直しを行い改善したところ、再び作業ができるようになった。

また、車通勤はA子さんと姉は問題ないと思い込んでいたため、産業医をとおして主治医に情報を伝えてもらい、主治医から姉に対し運転を辞めるよう説明された。A子さんを交えて姉と上司で話し合いをし、姉が送迎することにより就労を継続している。また、送迎の際に一緒に買い物するなど姉の見守りにも繋がり、安心して生活ができるようになった。

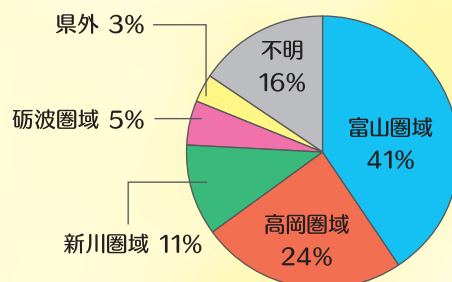
④性別(実数336人)

性別では、男性が半数でした。



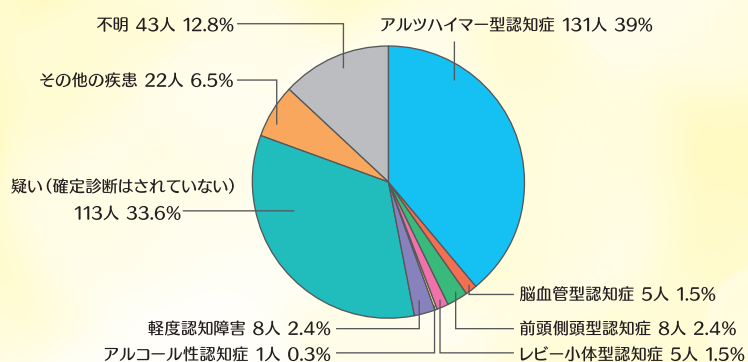
⑤居住地別(実数336人)

居住地別では、富山圏域が4割を占めています。



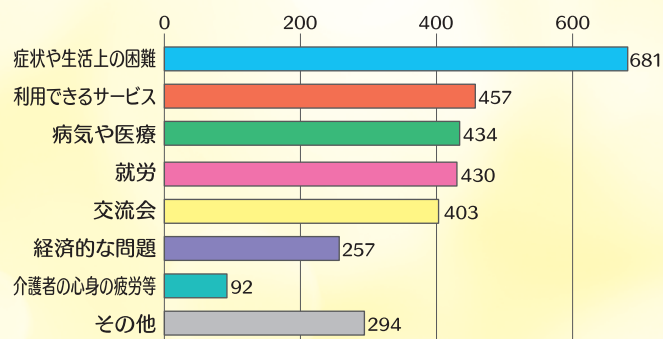
⑥初回相談時の疾患別内訳(実数336人)

初回相談時の疾患名では、「アルツハイマー型認知症」が最も多く約4割、次いで「認知症を疑っての相談」でした。



⑦相談内容(延数3,048件)

相談内容は、「症状や生活上の困難」が最も多く、次いで「利用できるサービス」となっています。



相談例

認知症を認めたくなかったがデイサービス利用につながったB子さん
(60代前半、女性、元看護師／夫、義母(要介護4、在宅サービス利用中)と3人暮らし)

B子さんは義母の介護は自分がしなければならないと思っているが、食事や薬の出し忘れや、オムツ交換を力任せに行ったり、訪問介護の日に鍵をかけて拒否することがみられた。家事はすべてB子さんの夫(二交替勤務)が行っていた。

B子さんに認知症の受診を勧めると怒って拒まれたが、主治医が脳ドックでの受診をすすめ、アルツハイマー型認知症と診断される。B子さんには診断名を告げず、主治医から「物忘れが進まないよう薬を飲もう」と説明され、服薬を受け入れた。

B子さんの様子を心配した義母のケアマネジャーが当センターに相談され、ケアマネジャーとB子さんの娘が来所。家族は介護サービスの利用は難しいと感じており、B子さんが就労を希望していることから、相談支援事業所を紹介。就労継続支援事業所(B型)を2か所見学し、B子さん、家族ともに気に入った事業所で就労体験した。しかし、作業の手順をすぐ忘れてしまったり、荷物や靴が気になり、何度も離席するため、常時見守りが必要で、就労の対象ではないと断られる。

家族はB子さんの状況を納得され、介護保険を申請、要介護1と認定された。義母のケアマネジャーがB子さんも担当し、義母と同じデイサービスを一緒に体験利用した。B子さんは義母の付き添いでデイサービスに行っていると思い、利用開始につながった。

本人・家族の交流会

本人・家族が気軽に交流できる集いの場を参加者の声を取り入れ工夫しながら開催しています。
令和5年度からは「なないろカフェ」と「おしゃべりサロン」の2つの交流会を隔月で開催しています。

●なないろカフェ〈本人・家族の交流会〉

奇数月 第3土曜日午後

本人家族を交えて交流したり、本人、家族に分かれて日中の過ごし方、制度やサービス利用等について情報交換したりしています。

同じ病気の人がいることが
分かり、ホッとした

話ができて楽しかった

参加者の声

●おしゃべりサロン〈家族の交流会〉

偶数月 第3火曜日午前

介護者の思いや悩みについて話し合ったり、福祉作業所、介護サービスの利用や経済面の制度等について情報交換したりしています。

制度やサービスのことが
よくわかった

少し先輩の介護者から
体験が聞け、参考になった

支援者のための研修会及びネットワーク会議

研修会やネットワーク会議をととして、医療・介護・福祉・行政・労働等関係機関の方と連携を図っています。

開催日	内 容（オンライン開催）	参加者
令和7年 10月29日	○講 義 「若年性認知症の人と家族の支援について～若年性認知症支援コーディネーターによる診断後から地域生活につなぐ支援について～」 講師 特定非営利法人いきいき福祉ネットワークセンター 理事長 駒井 由起子 氏 患者家族 ○体験談 「妻が認知症になって11年～夫の思い～」 ○活動報告 富山県若年性認知症相談・支援センター	85名 地域包括支援センター、 行政、医療機関、 居宅介護支援事業所、 相談支援事業所等

〈感想〉

- 講義では、若年性認知症に特化した制度がないため、制度の間のコーディネートが必要なことを改めて意識しました。
- 当事者が安心して生活できるよう関係機関との連携を強化して、一緒に取り組む事の重要性を改めて感じました。
- 体験談では、家族の戸惑いや葛藤等を聞くことができ、大変参考になりました。

啓発普及事業等

若年性認知症のことや当センターを知ってもらうため、リーフレットを配布しています。

昨年度は、早期診断や相談につながるようポスターを作成し、医療機関や関係機関に配布しました。

また、地域で行われる関係機関の勉強会で活動紹介や事例報告を行い、周知及び連携を図っています。



センター
リーフレット



企業等・職場向け
リーフレット



若年性認知症
ハンドブック

上記リーフレットをご希望の方は、当センターへお問い合わせください。またホームページからダウンロードできます。



ホームページは
こちらから

若年性認知症支援コーディネーターのつぶやき

突然若年性認知症と診断された当事者やご家族の気持ちは計り知れません。「もしかして…」と思った時や「診断された」時は、早めに相談いただければ、いろいろな制度やサービスの利用につながります。開設して10年になりますが当センターをもっと広く知ってもらうにはどうすればよいのかいつも考えています。

